

# 遊休農地解消を目指した 農業委員会の取り組みについて

葛城市農業委員会

## 1. 農業の概要

本市は、奈良県北西部に位置しており、金剛生駒紀泉国定公園を含む美しい田園地帯をなす閑静な市であります。

農業の概要については、耕地面積約883haで田が809ha・畑が74ha、農家戸数は1273戸です。

主要な作物としては、水稻・ねぎ・菊・なす等が盛んに作られており、特に古くからこの辺りは菊の産地であり、近年二輪菊の生産も増え、全国一、二を争う出荷量を誇っています。畜産業におきましても、大正時代から続いた県下有数の酪農地帯であり13戸の酪農家が乳牛約589頭を飼育しています。認定農業者は59名、集落営農組織が2地区あり、農作物直売所については3箇所あり市民はもとより、市外の方々との交流の拠点としての役割を担っています。又、市内に農業参入している農業生産法人は現在4法人あり、農地の効率的な集約化が図られています。

高齢者が主な農業経営者なため、担い手不足、及び農業所得の低迷による後継者の確保が困難な状況であり、遊休農地の増加が危惧されております。

## 2. 農業委員会の取り組み

### ①具体的な取り組み内容

農業委員会本来の業務である農業振興活動を農業委員自らが行わなければとの気運が高まり、「遊休農地を農業委員会が率先して解消していこうではないか」との声が上がりました。

これをきっかけに、平成21年度より遊休農地の解消モデル事業の取り組みが始まり、昨年度までに、56アールの遊休農地を解消しています。

今年度は葛城市竹内地区にある約32アールの遊休農地を解消モデル地として選定し、26名の委員が力を合わせて樹木を伐採・伐根した後、石の除去作業を行った結果、見違えるような良好な耕作地へと再生することができました。その後はもち米、黒豆、里芋、パパイア、サトウキビや観賞用の綿を栽培し、収穫しました。

収穫した作物は市のイベント「ゆめフェスタin葛城」にて地産地消をテーマに販売しました。同時に農地に関する相談窓口を開設し、農業委員会の活動について広く市民に理解いただき、遊休農地解消モデル事業の取り組みもアピールすることができました。



また、11月には市内44ヶ大字を21地区に分け、地区ごとに割り振りされた各農業委員と事務局、市農林課職員が連携し、農地パトロールを行い、遊休農地などの耕作上問題のある農地全てを地図に記入する調査を実施しました。

この農地パトロールで発見された遊休農地の所有者には農地アンケート意向調査を行い、耕作の有無や遊休農地になった原因を確認し、耕作の再開や農地の維持管理について適正に行うように指導を行うとともに、耕作の見込みがない場合には流動化を促して遊休農地等の増加防止に努めています。



## ②取組みに当たっての課題

現在、農地パトロールで発見された遊休農地については流動化を促していますが、その担い手農家の不足が課題になっています。耕作者は兼業農家が多く、耕作すること自体が困難な場合も多く、獣害対策の必要な山麓部だけではなく、平地部の農地の遊休農地化が目立ちつつあります。また、どの市町村でも同様のことかと思われませんが、農業経営者の高齢化が進む中、担い手農家の世代交代が危ぶまれている状況です。今後の課題としましては、地域資源である農地の維持と、農業所得の低下や農業経費の高騰の中、農業経営の安定を図り農業後継者を確保することをいかにして行うかです。

## ③課題への対応方法

遊休農地所有者への農地意向アンケート調査と同時に貸借の意向調査も行っています。その中で所有者の意向と土地の状況を把握し、農地情報台帳の整備を進めています。そしてその台帳を利用して、認定農業者や各種団体への流動化を支援していきたいと考えています。



また、農業後継者の増加に関しては現在、市農政を中心に、農業委員会を含めた農政活性化推進協議会にて様々な農業に関連した事業が進められています。協議会では農業に対しての関心を持ってもらうための取組みや、農業経営の安定化を目指した事業を行い農業後継者の確保に努めています。